

# 地域・学校・子どもたちとともに - 奥出雲町 -

指導主事 宮森健次 ・ 社会教育主事 田中茂樹

## ふるまい向上の取組

奥出雲町では、今年度のふるまい向上の取組として就学前の児童・保護者を対象にふるまい向上の啓発活動を行っています。

生涯学習課の中にある子育て支援室と連携し、幼稚園・保育所でのPTA研修や職員研修を親学を中心に参加型で行うことになりました。

### 幼稚園・保育所でのPTA研修会



#### (保護者の感想)

ふだん、送り迎えの時に他の方と会ってもなかなかしつけのことなどお話しする機会はありません。今日は、いろいろな方とお話しできてよかったです。それぞれの人の考え方、男の子のお母さん女の子のお母さんによっても考え方が違うところがあるんだなあと思いました。とても勉強になりました。

### 幼稚園・保育所職員の合同研修会

ふるまい向上プロジェクトコーディネーター荒木伸子先生をお招きして、幼稚園・保育所職員80名で研修会を実施しました。

講演の後6人グループになって「園児」のふるまいも含めてグループ討議を行いました。園児や保護者とのかかかわりの中で心がけていることや悩みなどを話し合うことで、保育所の先生と幼稚園の先生との繋がりが深まった会となりました。



### 地域住民への啓発活動

奥出雲町青少年育成会議、公民館運営委員会、婦人会等での研修会で地域への啓発を進めています。「ふるまい」を自分の言葉で語れるように(例 ふるまい運動はふれあい運動)。

## 生徒指導・特別支援教育の視点から

問題行動や不登校の未然防止のためには早期対応、支援のつながりが重要であることは言うまでもありません。それをどのように具体化させるかを課題として取り組んでいます。

例えば、町の生徒指導・特別支援教育に関するシステムの在り方を見直すことがあります。

町内小中学校で組織された生徒指導部会、生徒指導に関するシンクタンクである生徒指導サポート会議、特別支援教育では同じく特別支援教育部会、さらに相談事業を有し町全体のネットワークでもある奥出雲町特別支援連携協議会などの機関が積極的に連携して活動できるように、その在り方の見直しと試みを行っています。

具体的には、そのシステムに新しい情報を送り込み、流れを活発にすることがあります。

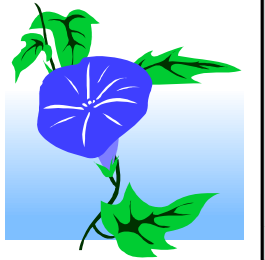
それは、情報が届くのを待っているだけでは早期対応、支援につながりにくいという実感があるからです。頻りに学校に出向く、そこで入ってくる取組状況や効果的な取組事例などの情報こそ大事だと考え、毎日、保幼小中におじゃましています。そして、それらの情報を他の機関や学校へ紹介し、早期対応や支援のつながりを図りたいと考えています。

# 所報 管内の教育

第38号

- 主な内容
- 1 調整監 学校訪問を終えて
  - 2 学校図書館活用教育指導力向上セミナー
  - 3 教科指導力向上セミナー〔小学校算数〕
  - 4 地域・学校・子どもたちとともに - 奥出雲町 -

出雲教育事務所  
平成23年 7月



## 学校訪問を終えて

調整監 原 悟 司

今年度の教育事務所長訪問は、5月9日の斐川町立出東小学校から開始し、6月21日の出雲市立南中学校の訪問をもって終了いたしました。春から夏にかけて、山の緑の変化を感じつつ、天候にも恵まれ予定どおりの日程で訪問できました。

この訪問全体を通して感じたことは、

一、「気持ちよく、さわやか」に訪問させていただいたということです。玄関には、スリッパがきちんと揃えて置いてあり、案内板には歓迎のことばと出迎え、そして、出会った子どもたちの元気な挨拶等々、校長先生、教頭先生、職員の皆さんの心遣いとさわやかな対応で気持ちのよい訪問をさせていただきました。まさに、ふるまい向上実践中です。ありがとうございました。

二、今、学校は「地域とともにある」ということです。校長先生の学校経営ビジョンのもと、地域にきちんと目を向け具体的な実践を通して、地域と一体となった学校運営が行われていました。子どもの育みを通して学校が地域とともに歩んでいる、と実感しました。

三、子どもたちが「落ち着いて学校生活を送っている」ということです。元気のよい挨拶、明るい笑い声など、校長先生をはじめとする教職員、地域の方々の温かいまなざしの中で、よい育ちをしていると感じました。

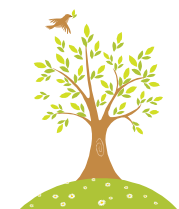
さて、この訪問では、主として、人事異動と校内体制 ふるまい向上の取組 教職員の育成・指導の三点について、現状やお考え等をお聞きいたしました。

まず、については、どの学校も、教職員を適材適所に配置され、職員一人一人が持っている力を十分発揮できる環境づくりに工夫が見られました。また、異動ルールの細則解消についても、一人一人のキャリア、家庭状況等にも十分配慮され、適切な指導がなされていました。出雲教育事務所の方針として、以前から各校の学校経営構想並びに各市町の教育構想を尊重した「広域人事の実施」をあげてい

す。自身のキャリアアップという視点も踏まえ計画的な細則解消と赴任計画を立てていただきたいと思います。

次に、については、県民運動として2年目を迎えた今年度は、「ふるまい向上」を経営の重点に入れてある学校、ふるまい向上担当として分掌に位置づけてある学校、「しぐさ」として推進している学校、地域(学校運営理事会ブロック協議会、公民館、交流センター等)やPTAとの連携事業として取り組んでいる学校など様々なスタイルで、すべての学校で意識的に取り組まれていました。特に、「あいさつ」については、すべての学校での取組として、定着していました。今後は、学校経営への位置づけと情報発信、PTA・地域との具体的な連携事業としての位置づけと実践など、地域の特色を生かした県民運動となっていくことを期待しています。

最後に、については、「職員室の担任」としての教頭先生の目配り・気配りがしっかりなされていると感じました。声をかけ、話をしっかり聞く、授業参観後のコメント、仕事を任せるなど、普段からのコミュニケーションを大切にされた風通しのよい、勤めやすい環境づくりへの努力が見られました。また、ミドルリーダーの育成など組織としての動きの中で、組織体として学校の力と個人の力をいかにアップしていくかを意識した取組も多くの学校で行われていました。教頭先生方が「学校の要」であること、学校運営において「報・連・相」が大切であることを、この訪問を通して改めて認識したところです。「報・連・相」の中でも、特に「相」=相談することを大切にいただきたいと思います。このことが、お互いに尊重し合うことにつながるのではないかと考えます。ますます多忙化・複雑化する学校現場ですが、教頭先生には、職員一人一人が、健康で、意欲をもって勤務できる学校づくりの中心となっていただくことを期待しています。





# 学校図書館活用教育指導力向上セミナー

斐川町立西野小学校を会場に、6月9日(木)『学校図書館活用教育指導力向上セミナー』を開催しました。この研修は、平成22年度の島根県学力調査及び全国学力・学習状況調査の結果(小学校国語において「書くこと」に課題)を踏まえ、示範授業や講義等を通して、授業改善のための実践力の向上を図ることを目的とするものです。

帝京大学文学部教育学科 鎌田 和宏准教授による6年生社会科の示範授業・協議と、講義・演習を中心に実施しました。参加者の感想から、研修の概要をお知らせします。

## 示範授業【学校図書館資料を活用した情報活用教育の実際(書くことを中心に)】

情報の取り出し方、カードへのまとめ方など、子ども達に指導する際の導入や活用の仕方がとてもよくわかりました。授業の中で様々な資料(地図・辞典・百科事典など)に触れさせ、活用させていくように方向づけていくことが大切だと思いました。流れを止めることなく、自然に資料にふれさせるような働きかけが重要だと思いました。子ども達の興味関心をひいたり、意欲を高めたりする導入の工夫や視覚に訴えるものよさを改めて感じ、使いこなしていきたいと思いました。



## 協議【学校図書館を活用して書く力をどう育てるか】

カードに書く内容があるかというテーマの吟味が大切だと感じました。教科書・辞典がスタンダードだということを改めて心に留めたいと思います。書く意欲をもたせるための工夫をすること、書き方をしっかり教えることや各教科で年間を通して計画的に指導していくこと、個に応じた支援を行い力をつけていくこと等の大切さがよくわかりました。



## 講義・演習【書く力を育てる学校図書館教育】

情報カードの記入・操作の仕方について実際に行うことでよく理解できました。児童の実態に合う形で取り入れていきたいと思えます。情報カードの操作から文章化することが難しいと感じましたが、書く力をつけるのに効果的な実践であると感じました。書く力を育てるためには、「書く意欲」「書く技術」が大切であること、「書き抜き」はグレードの低いことではないことが理解できました。書く力を高めるには段階的な指導が重要であること、多様な意見にふれる図書教材との出会いと活用がこれから求められていることを強く感じました。調べ学習に使える図書館づくりや図書館を活用した授業の実践を積極的に行っていこうと思えます。



## 全体を通して

今まで行ってきたノート指導だけではなく、カードを利用したり、図書館資料を活用したりすることで、子ども達の学習活動に広がりや深まりができたと思えます。子ども達にうまく還元できるようがんばりたいと思えます。実際の授業を見せていただいたことで研修が深まりました。また、鎌田先生の温かいお人柄や常に子どもの立場を大切にしておられる姿勢には、教師として学ぶことが大きかったです。

示範授業は、国語科で培われた書く力が学校図書館を活用した社会科授業の中で生かされ、授業のねらいの達成をめざしながら、書く力を一層育成しようとするものでした。参加者の校内での伝達を通して各学校において学校図書館活用教育の実践がより効果的に進められることを期待しています。

御協力いただいた斐川町立西野小学校の校長先生をはじめとする教職員の皆様、6年3組の子どもたちに感謝します。

# 教科指導力向上セミナー - 小学校算数 -

6月2日(木)に、鳥取大学地域学部地域学科 溝口達也准教授を講師としてお招きして、「平成23年度教科指導力向上セミナー(小学校 算数)」を開催しました。

このセミナーは、次の3つの内容で実施しました。

今回のセミナーの開催の趣旨等についての説明

「思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりのポイント」について授業ビデオの視聴を交えた溝口先生の講義

講義を参考にした思考力・判断力・表現力等を育てるための授業の指導案作成

## 概要説明

島根県の児童の学力調査の結果から

- ・よい面 単純な計算等の技能の定着
- ・課題 根拠や意味を理解した上での知識や技能の定着、筋道を立てて考える力や説明する力

島根県の児童の学習状況調査等の結果から

- ・よい面 学校での日常生活や社会と結びつけた発展的な学習の広がり
- ・課題 算数・数学に対する学習意欲

学校での授業の現状から

- ・よい面 導入や教具等の工夫、児童の意見や考えを引き出すこと
- ・課題 1時間の授業でめざす児童の姿(評価規準)の明確化、話し合いの後の練り上げ

指導の重点

- ・量感を育てることや分数や割合の意味理解を図る。
- ・算数的活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育てる授業を行う。

## 講義：受講者の感想

- ・思考と表現の一致、図と式との対応という点がとても参考になりました。
- ・視点が新鮮で興味深かったです。練り上げを見通したよい課題の開発の大切さ、数直線図の考え方や演算決定の根拠としての意味や有効性など、とても参考になりました。
- ・練り上げをどのように組んでどのように実施すればいいかまだ分からないところがあるが興味があります。

## 演習：受講者の感想

- ・具体的な指導案を自分たちで考え、それについて指導していただいたのでよく理解できました。何より(指導案作成が)楽しかったです。
- ・教材の捉え方を今一度見直したいです。思考力・判断力・表現力等を評価するための適切なねらいの立て方や評価規準の明確化が必要だと思いました。
- ・練り上げが成立するように授業を構成するのに苦慮しましたが、これからの授業づくりのヒントとなりました。最後の全体指導は、具体的にわかりやすかったです。

## 全体：受講者の感想

- ・思考力・判断力・表現力等を育てる授業の在り方の方向性をつかむことができました。
- ・教科書中心の授業を行ってきたので、溝口先生の講義でいろいろ学ぶことができました。練り上げが成立する授業になるように今後も研修を積んでいきたいと思えます。
- ・研究職員会で今回の演習をそのまま実施しようと思えます。セミナーの内容の伝達のみで終わるのではなく、実際に演習を行うことで我々の力がつくと感じました。

